



アメリカ初の最先端のオーディオシステムを導入！ その中身とは……？

ミニでもいい音聞きたい！

ミニはオーディオカスタムという面では実は厳しいクルマ。コンソールやドアが特殊な形状で、しかもデザインの完成度が非常に高く、ヘタにイジるとカッコ悪くなる。さらにR56はメーターの下に純正オーディオがあって社外のオーディオが導入できないなど。ただそんな状況でもやっぱりいい音は聞きたいもの。そこで今回紹介するのがアメリカで今主流になりつつあるという新しいシステム。さて一体どんなモノなのだろうか……？

Photos/ Kazuhisa Matsuda Text/ Keiji Kaga

ミニには「フロントダブルミッド」と呼ばれる「ツイン」が標準で搭載するR50は、名古屋市中区にあるカーオーディオショップの「HOT WIRED」がオーディオをインストールしたミニ。この車両の特徴は、日本ではまだあまり知られていない「フロントダブルミッド」という方式を採用していること。これはオーディオの先進国であるアメリカで主流になりつつある方式だ。

「フロントダブルミッド」と呼ばれる「ツイン」が標準で搭載するR50は、名古屋市中区にあるカーオーディオショップの「HOT WIRED」がオーディオをインストールしたミニ。この車両の特徴は、日本ではまだあまり知られていない「フロントダブルミッド」という方式を採用していること。これはオーディオの先進国であるアメリカで主流になりつつある方式だ。

「フロントダブルミッド」と呼ばれる「ツイン」が標準で搭載するR50は、名古屋市中区にあるカーオーディオショップの「HOT WIRED」がオーディオをインストールしたミニ。この車両の特徴は、日本ではまだあまり知られていない「フロントダブルミッド」という方式を採用していること。これはオーディオの先進国であるアメリカで主流になりつつある方式だ。

「フロントダブルミッド」と呼ばれる「ツイン」が標準で搭載するR50は、名古屋市中区にあるカーオーディオショップの「HOT WIRED」がオーディオをインストールしたミニ。この車両の特徴は、日本ではまだあまり知られていない「フロントダブルミッド」という方式を採用していること。これはオーディオの先進国であるアメリカで主流になりつつある方式だ。



広くないミニのトランクを考慮してボックスは小さいけれど出力が大きいJBL AUDIOのHD6004というランプと両Wh2というウーファー、HOT WIREDがワンオフしたシルバークーポン調の3本角のインポートスピーカーを、



DVDなどを設置することも可能。世の中のミニモニターはインジキが主流だが、完成されたミニのインジキデザインを崩さないようにインジキは大き過ぎず、そこでもインジキを採納。これなら見やすさを保たれている。モニターは10.2インチ。

見た目と実利を両立したミラー！



デザインを優先するあまり、純正のサイドミラーは見づらい。HOT WIREDが扱い広角ドアミラーは除水効果と防眩効果もある優れたモノ。ゴールド、ピンクパール、ブルー、グリーン、シルバークの5色あり。値段は2万1000円。

ヘッドユニットはALPINEのCDA-X100。ナビの中央にシフトゲイブがあるがデザインがMINIのインテリアにマッチしている。ちなみに写真のPass&Riderは、メーカーでお馴染みのMINI&AとHOT WIREDが共同開発のアイテム(MINI&Aから発売予定)。使いづらくデッドスペースとなりがちな純正ドリンクホルダーも収納スペースを有効利用。後部にインストールするこんな方法も参考したい。丹せば元に戻せるのも高ポイント。



◀◀◀カギを握るのは「ツイン」



ALPINE一環にフェーダーが、ドアにミッドレンジスピーカーがそれぞれ組みつけられ設置されている。フェーダー、ミッドレンジは後部座席に搭載するスピーカーカーであるアメリカのJBL AUDIO製。